

平成二十七年入学式式辞

本日ここに平成27年度学部第67回、並びに大学院第63回の入学式を挙行いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず岐阜市副市長・浅井文彦様、岐阜市議会副議長・山口力也様、岐阜薬科大学同窓会長・宇野進様、岐阜薬科大学後援会長・松巾昭（まつはば あきら）様はじめご来賓の方々、並びにご家族の皆様方には、ご臨席を賜り、新入生の皆さんを祝福していただきましたこと、大学を代表して心より厚く御礼申し上げます。

新入生の皆さん、大学院及び大学へのご入学、誠におめでとうございます。

長年のご努力が実り、今日の入学式に臨まれました皆様方には心からお祝いを申し上げます。また、ご臨席のご家族の皆様方にとつても、その喜びはひとしおのものがあるかと推察いたします。重ねてお祝い、お慶びを申し上げます。

本当におめでとうございます。

さて、新入生の皆様は、本日から岐阜薬科大学の学生であります。今日は①本学の教育・研究体制など本学の概要と、②これから学生生活を送られるうえでの心構えなどの、2点についてお話をさせていただきます。

まず、第一点目の本学の概要についてであります。

本学は昭和7年に当時の松尾岐阜市長をはじめとする多くの方々のご尽力により、岐阜薬学専門学校として創立されました。その後、昭和24年の学制改革により岐阜薬科大学として新しく発足し、その4年後の昭和28年には我が国の薬学系の大学としては初めて、東京大学薬学部、京都大学薬学部とともに修士課程の大学院を、さらに昭和40年には大学院博士課程を設置し、高度な研究を基盤とする薬学教育の先鞭をつけました。

以来80有余年に及ぶ歴史の中で、建学の精神であります「強く、正しく、明朗に」をモットーに高邁な人格形成と、「人と環境にやさしい薬学、安全で安心を提供できる薬学」すなわち「グリーン・ファーマシー」を基本理念とした薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献できる人材の育成に努めてまいりました。

その間、約1万1千人を超える卒業生が、製薬会社や医薬品販売業などの医療業界、病院や薬局などの医療機関、国や地方公共団体などの行政機関、さらには大学や研究機関など幅広い分野において活躍されていることは、本学の誇りとするところであります。

そして、現在では平成18年度から始まった新しい6年制の薬学教育のもと、

学部としては薬学科と薬科学科の2学科があります。

このうち、「薬学科」においては「安全で確実な薬物療法を提供できる薬剤師」、「地域や社会のニーズに向き合い、健康で質の高い社会を築くことに貢献する薬剤師」を育てることを目標として、6年間の薬学の学びの中で、医薬品に関する基礎的知識と技術の習得、病院や薬局での長期実習を通じ、医薬品に関する高い専門性を身につけるとともに、倫理観、コミュニケーション能力、そして現実をしっかりと見る確かな目を持った人材を育成する教育を進めております。

「薬科学科」においては、学部卒業後、大学院を経て「医薬品の研究、開発の中核となる研究者や技術者」を育てることを目的として、医薬品開発をデザインしたり、医薬品の規制や流通のあり方、グローバル展開など経営的戦略を考えたりするダイナミックな高度な専門知識を有する人材を育成する教育を進めております。

また大学院など研究体制としては「伝統の中からこそ真の改革的教育・研究が生まれる」との信念のもと、情熱的で優れた教員により自由闊達な研究を進めるとともに、大学として「いかに患者さん個人・個人の治療の向上に役立つ薬へと改良していくかを研究する」・「育薬」と「難病治療に向け、世界に発信できる新薬を研究する」・「創薬」というプロジェクトに沿った研究を進めております。

また、平成20年度には「安全で有効な個別化治療」へと移行しつつある医療の社会的ニーズに応えるため、岐阜大学の工学・医学の教育・研究機関と連携して、全国初となる国立大学法人と公立大学が連携した「岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科」を新設しました。

さらに平成23年度からは医薬品及び医薬機器の許認可、安全性確保に関する我が国唯一の専門機関であります独立行政法人医薬品医療機器総合機構、いわゆるPMDAと薬系大学では全国初となる連携大学院をスタートさせました。

また最近では、グローバルレギュラトリーサイエンス講座の設立、中京大学との経営管理学修士(MB)のダブルディグリー取得制度、更には危険ドラッグ検出技術の取り組みなど、他大学にはない取り組みを行っております

さらに、教育、研究の成果を社会に還元するため、「地(知)の拠点」、これは「地域の質」を高めるため、「地域と連携し、大学が有している知識を地域に還元する拠点」として、生涯学習や市民講座をはじめとする市民を対象とした教育講座や、行政・民間が主宰する多くの科学技術プロジェクトなどに参加するなど、地域及び国際社会に貢献する取組も進めております。

今後は、ますます進展する高齢化社会や、環境技術がキーワードとなる高度文明社会において、高度な研究に裏付けられた教育のできる大学として、また伝統的に培ってきた育薬・創薬に関する教育・研究の成果を世界に発信できる

大学として、さらに発展し続けてまいります。

次に2つ目の「学生生活を送られるうえで心構えなど」についてお話しさせていただきます。

そのうちまず、「学び」、「学問の道」であります。新入生の皆さんは、これまでは「教えを受ける人」として「生徒」と呼ばれてきました。しかし、大学では「学ぶ人」、「学生」であります。もちろんこれからも多くの教えを受けなければなりません。学生の自分を忘れることなく、自ら学問を修めることに強い意欲と気概を持って、日々前進する生活を送ってください。学問の道は極めてわしいものです。その困難を乗り越え、またはスランプに落ちた時は再起していくのが学問の道であります。常に向上心、問題意識を持って、「夢」を持ち、「夢」をただ「夢」で終わらせるのではなく、「夢」を「目標」として努力し、実現してください。

また、超高齢化社会を迎えた現在、これからの薬学の専門家は、薬学の専門知識を有することはもとより、豊かな感性と品格に裏付けされる質の高い人間性を兼ね備えたスペシャリストでなければなりません。

江戸時代の陽明学者である山田方谷は人間の正しい生き方、気持ちの持ち方は「至誠惻怛」でなければいけない。すなわち「至誠」・まごころと「惻怛」・痛み悲しむ心があればやさしくなれる。そして目上の人には誠を尽くし、目下の人には慈しみを持って接する必要があると説いております。

新入生の皆様方には、薬学の道を究めることができる環境・社会を与えていただいたご両親、さらにはこれまで指導していただいた多くの恩人に感謝するとともに、これからの学生生活の中で、多くの師、多くの友に出会い、その出会いからさらに多くの言葉に出会って、自ら豊かな悟性と感性の涵養に努めていただきたいと思えます。

更にグローバル社会に適切に対応するため、機会があれば積極的に海外に向き、異文化に触れることにも心がけていただければと思います。

一度しかない貴重な青春時代を有意義に、かつ満ち足りた学生生活を送られんことを祈念いたしまして、私からの式辞といたします。

平成27年4月7日

岐阜薬科大学

学長 稲垣 隆司